

2025年5月

幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園

園長 田中 真一

2024年度 学校評価報告書

1. 第IV期中期経営戦略における本園のビジョン

○園児一人ひとりの成長を確かな形で保護者が実感することができる、園児の主体性を伸ばす教育保育を実践するこども園

2. 第IV期中期経営戦略の中期計画に係る2024年度の成果

1) 園児の主体性を育む教育保育の展開

園児の主体性を育む教育保育を展開するために、本園では保育環境の整備・充実およびカリキュラムの改編に継続的に取り組んでいる。

まず、保育環境の整備・充実については、園庭の大規模リニューアル第2弾として、砂場の拡張（約2倍の面積、がちゃぽんポンプ新設）、大型菜園の設置、屋外黒板の新設、低年齢児用すべり台の新設および植栽の追加を行った。これにより、園児の遊びの質的な向上（自発的、挑戦心、創意工夫、共同作業、生き物への関心などプラスの変化）が見られた。また、朝の園庭あそび、泥団子づくり、米づくりなど園庭を活用した新たな取り組みも積極的に行なった。

各保育室においては、クラスでの園児の興味や関心を深掘りできるよう、園児とともに工夫してレイアウトを変更しさまざまなコーナーを設え、作品や収集物を展示できるスペースも設けた。その結果、園児たちが自ら遊びを選びじっくりと遊び込む姿が日常的に見られるようになった。

加えて、共用スペース（1階エントランス）にくつろいで絵本が楽しめる絵本コーナーと、天然素材を中心のおもちゃコーナーを新たに設けるなど、保育環境の充実を図った。

次に、カリキュラムの改編については、策定した「育ってほしい子どもの姿」を具現化するための保育実践の仕方について園内ワークショップを行い、行事などの目的の再確認を含め次年度の年間計画への反映を行なった。

運動会における役割やダンスの振り付け、また生活発表会における演目や役、台詞や振り付けを園児たちが自ら相談して決めるなど、主体性を尊重し育むことを大切にした保育実践を行なった。日常においても同様に、園児自身の思考を促し、選択し決定できる機会を多く設けた。また、園児がすべてを決めて実行する「フォーチャンバー」を発展させ、クラスごとに年間を通じて園児の思いを聞きながら興味や関心を深めていく取り組みを始めた。

2) 積極的な情報発信の推進

在園児保護者に向けた施策については、情報発信はすでに定着しているため質的向上に力点を置いて取り組みを進めた。ドキュメンテーションでは、保育のねらいや園児の育ちを含めて詳しく記した、学期に1回のクラス別活動報告の配信を継続して行った。あわせて月に2回の学年のようすの配信も継続して行った。ポートフォリオでは、これまでどおり月に1回、園児一人ひとりの成長記録として配信を行い、保護者との情報共有も図ることができた。

未就園児保護者をターゲットとした施策については、園を知ってもらう、実際に園に来て雰囲気を感じてもらうことを徹底して行った。

園を知ってもらうために、ホームページを全面刷新し「育ってほしい子どもの姿」など園が大切にしていることを前面に出し、園児募集にフォーカスしたものとした。動画コンテンツも増やし、リニューアル

が完成した園庭での遊びの動画、園歌の動画なども新たにアップした。インスタグラムでの園のようすの配信も継続して行った。「育ってほしい子どもの姿」をトップに、園のアピールポイントを分かりやすくまとめたコンセプトブックを新たに制作し、入園説明会やプレスクール見学会などで配付した。ほかにも、豊中市との連携強化（子育て支援アプリ参画、冊子出稿）、入園説明会の拡充などにも取り組んだ。

園に来てもらうための施策として、子育て支援事業フォーキッズで園庭開放や園内探検ツアーをはじめとした多彩な企画を準備し、概ね月に3回のペースで実施した。両中高と連携しての園内吹奏楽コンサートや一日動物村などの特別企画も好評で多くの親子連れが来園された。入園説明会や随時行っている園見学では、日常の保育のようすが伝わるように丁寧な説明を行った。

3. 課題について

2. に記述のとおり、2024年度に予定していた取り組みについては計画どおり実施でき、中期経営戦略は概ね順調に進捗している。園児募集に関しては定員を充足することができたが、今後ますます少子化が加速する可能性が極めて高いため、2025年度以降も追加施策を講じて未就園児保護者層への効果的な情報発信と来園機会の増大を図り、安定的な募集に努めることとする。

4. 学校評価アンケート結果について

本園では毎年度保護者に対してアンケートを実施し、より良い教育保育の実践および適正かつ円滑な園運営のために活用している。2024年度の保護者満足度（保護者推薦度＝他者に入園を勧める割合）は94.9%と前年度に続き非常に高い水準を維持することができた。

また、教育保育の内容や質、教職員の対応、家庭との連携、園の運営方法などに関する個別の質問についても、24項目すべてについて95%以上の回答者から肯定的な高い評価をいただくことができた。これらのうち18項目については、直近の5年間で最も高い評価となった。

5. 学校関係者評価委員会からの意見について

学校関係者評価委員会からいただいた意見は以下のとおりである。なお、改善が必要な内容についてはすでに対応している。

- ①毎日楽しく通園しできることがどんどん増えているのは、園のおかげだと感じている。
- ②園ならではの体験が豊富なのがありがたい。いつも園でのできごとを家で興奮気味に話してくれる。
- ③季節のイベントも本格的で子どもがいつも喜んで帰ってくる。
- ④きっと(ICT教育プログラム)の教材を選ぶ際、アートポン(お絵かき)のような、自分で創作して発表できるものがより良いのではないか。
- ⑤学院内連携企画(科学あそび、吹奏楽コンサートやプログラミング体験など)についても、いつも子どもが楽しみながら興味を広げることができている。
- ⑥全身を使った遊びや友だちとの共同遊びなど、園でしかできない遊びを経験できている。
- ⑦お迎えの際など、言葉遣いが気になる子どもがいると感じる。場面に応じた正しい言葉遣いについても留意してほしい。
- ⑧例えば大きなソフトブロックなどあれば遊びの幅がさらに広がるのではないか。
- ⑨給食会社の誤提供などにも対応できる安全管理の仕組みを徹底してほしい。
- ⑩保護者が重視するポイントのひとつは安全面である。アレルギー対応やケガ発生時の対応はどうか、防犯カメラなどの設備は完備されているか、そしていちばん重要なのは何かあった時の事後対応がしっかりとしているかである。せっかくならもっと安全面もアピールして良いのではないか。
- ⑪子ども目線の発信(例えば園庭紹介動画など)を試みるのも良いのではないか。園内関係者だけのおうちえんから始めてみてはどうか。

⑫SNSなどとの正しい付き合い方を身に付けるために、園児向けおよび保護者向けのリテラシー教育をしても良いのではないか。

6. 総括

本園では、「自分らしく生きる力を持った子ども」を育ってほしい子どもの姿として掲げ、「育てたい5つの力」、「保育目標」、「保育方針」とともに全教職員で共有し、その実現のために日々の保育実践を行っている。変化のスピードが速く振れ幅も大きい現代において、揺るぎない自分軸を持ち、主体的に自信を持って生きていく大人になるよう、一人ひとりの子どもたちの育ちを丁寧に援助している。

2024年度においても、日常保育やさまざまな行事（過程も含む）を通じて、子どもたちの興味や関心を喚起し、子どもたちが自分の頭で考え、決めて、最後までやり遂げる機会を多く設け、自信や自己肯定感を育む教育保育に取り組むことができた。

また、教育保育のさらなる質的向上のため、最新の知見を習得する研修（実地およびオンライン）への参加はもちろんのこと、ワークショップ形式の園内研修の実施や他園公開保育への参加など、保育教諭一人ひとりがスキルアップに努めた。さらに、各人が研修などで得たことを園内で共有し、実際の保育に活用することもできた。

以上